

レスポンシブル・ケアの取り組み

レスポンシブル・ケア活動は研究開発から製造、販売、お客様の使用時から廃棄に至る全ての過程において社内外の関係する方々の安全と健康および環境を守るものです。

当社では、サステナビリティ経営の一環として、レスポンシブル・ケア活動を実施しています。活動をより良くするため、ワーキンググループを活用し、部門横断的に連携しながら進めています。

(注) 情報共有しているグループ会社：理研グリーン、イハラニッケイ化学工業、ケイ・アイ化成、イハラ建成工業、尾道クミカ工業、クミカ物流、ネップの7社

さらに、クミアイ化学グループとしては、「レスポンシブル・ケアに関する基本方針」を策定し、経営層自らリーダーシップを発揮して、レスポンシブル・ケア活動を推進しています。化学系の当社グループ会社7社とも情報共有して、環境・健康・安全の確保と継続的な改善に努めます。



レスポンシブル・ケア推進体制

レスポンシブル・ケア推進委員会は代表取締役社長を委員長とし、常勤役員および部室長で構成され、レスポンシブル・ケア推進課を事務局として運営しています。レスポンシブル・ケア活動の取り組みを継続的に改善するため、次の内容を中心に取り組んでいます。

- ① レスポンシブル・ケア活動の目標・計画の策定
- ② レスポンシブル・ケア活動計画の進捗管理
- ③ レスポンシブル・ケアマネジメントシステムに関すること
- ④ レスポンシブル・ケア内部監査報告およびマネジメントレビュー

レスポンシブル・ケアに関する具体的な取り組み

フィットテスト義務化に向けた対応

フィットテストは、正しく保護マスク(呼吸用保護具)を装着できているかを確認するための試験です。近年の労働安全衛生法改正による新しい化学物質管理の一環として、保護マスクを使用して作業する従業員は、フィットテストを実施する必要があります。そこで、本社が主導して、グループ会社を含めてフィットテストが実施できる体制を整えました。また、保護マスクに関する教育をあわせて行いました。フィットテストは毎年実施します。



呼吸用保護具はフィットテストで確実に装着

社会との対話・コミュニケーション

当社では、工場や研究所で、地域住民やユーザーを招いた見学会を毎年実施しています。見学会は、事業説明や現場視察を行い、来場者に当社の安全意識や取り組みを知ってもらう良い機会となっています。また、ステークホルダーに農業や農薬に対する理解を深めてもらうため

の啓発活動として、冊子「まもるはなし」シリーズを作成し、各地の小学校等へ配布しています。さらに、一部の当社事業所近隣の小学校では、農業や農薬の必要性を啓発するため、学校出前授業を行っています。この取り組みでは、農薬の正しい情報の発信を通じて企業価値向上を図るだけでなく、農家の皆様や当社社員に自信を持って農薬を扱ってもらえる環境を作ることも目指しています。

レスポンシブル・ケア内部監査

2024年度の監査は、レスポンシブル・ケア(RC)活動の中心となる工場および研究所を対象に行いました。監査では、マネジメントシステム(MS)に加えて「環境保全」「保安防災」「労働安全衛生」「物流安全」「化学品・製品安全」「社会との対話」について、RC活動の現状を確認しました。その結果、各事業所ともMSが適切に運用され、PDCAサイクルを回して継続的に改善が行われていることを確認しました。また、管理規程や手順書の制定により、RC活動のプロセスが明確であることを確認しました。今後は、現場実務に着目し監査を行うことで、RC活動のさらなる成果向上を図ります。